
檸檬味のおめ玉

猫夜 霜暮澗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

檸檬味のあめ玉

【Nコード】

N4998Z

【作者名】

猫夜 霜暮濤

【あらすじ】

あめ玉なめてたら妄想してしまったこと

檸檬味のあめ玉を口に含むと、甘酸っぱくて、切ないような、幸せな味がする。噛むと案外脆く割れてしまって、でもその欠片は鋭くて、時々口の中を傷つけてしまう。なかなか他人には気付いてもらえない、見えにくい痛みがある。その全てがまるで、アタシの今のこの気持ち（恋）を現しているようで……

きつとね。アタシ、キミの事が好きなんだろうね……。

だって、最近授業中もキミのことを考えている事が多いんだ。今日あった出来事を話そうと思って、頭の中でこれを話そうとか、あれを話そうとか、考えてキミがどんな反応をするかを想像して、つい顔がニヤけちゃった。

キミの声を聴いただけで、胸が震えて、嬉しくて、ちょっとだけ恥ずかしくて、顔が熱くなって、きつと赤く染まってしまっている。穏やかなような、激しいような、淡く強い思い。アタシがキミに抱いている好きっていう気持ちなんだ……

きつとこれが愛しい。これが恋しい。これが好き。これが恋。

ああ、キミに伝えたら応えてくれるかな……？それとも、友達でしかいられないのかな……？

もし、この想いを伝えてしまったら……気まづくなってしまって、もう友達にも戻れなくなってしまうの？

ねえ、こたえてよ……

アタシはキミのことが好きになってしまったよ。

優しく、可愛くて、格好よくて、子供っぽかったり、少し大人びたりして、その反動にドキドキして、とても愛しく想ってしまうの。

ねえ、好きだよ。大好きだよ。この思いキミに伝えてしまってもいいのかな……？

(後書き)

読んであいただきありがとうございます！

ご意見ご感想ご指摘ご批評や誤字脱語教えていただけるとありがたいです！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4998z/>

檸檬味のあめ玉

2011年12月16日23時50分発行